

令和4年度 道徳科実践・研究計画

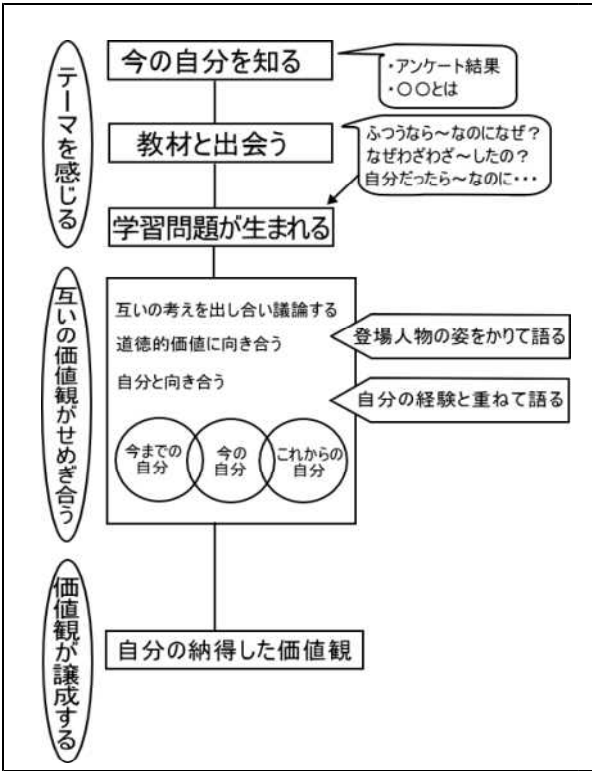
部 員	○小室真紀 佐々木恵 進藤由貴子 猿田千穂子 鎌田雅子 佐々木絵理子
-----	------------------------------------

研究テーマ
**道徳的価値に向き合い、
 自己の生き方をより深く、より豊かに見つめ直す子どもを育む学び**

1 研究テーマについて

生きることは選択の連続であり、分岐点での経験を重ねることで、選ぶ力がつく。分岐点での経験の積み重ねが、その後の決断のよりどころになっていく。その支えになっていくのが「心のものさし」である。物事を多様な側面から見て思考することによって、自己の生き方に選択する幅が刻まれる。さらに、自分を起点とした考え方や生き方を選択し確立していくことで、納得する道徳的価値観が刻まれていく。

「特別の教科 道徳」では、道徳的価値に真正面から向き合い、行為の意味や理由などを分析し明らかにしたり受容したりする「多面的思考」である受信と、自分を起点として考えたり自己の生き方を選択したりする「多角的思考」である発信を往復させた授業を創造していく。それが自己をより深くより豊かに見つめ直し、生きていく展望につながっていくことと期待し道徳科の研究を積み重ねていきたい。



図：道徳科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

道徳科で目指す自律した子どもの姿

- ・教材の登場人物への共感的追求から広げ、その行為やその背景にある思いについて語り合う姿
- ・仲間の考えにふれる中で、自身の考えを多面的・多角的に吟味し、気づきを生み出しながら自己の生き方を見つめ直す姿
- ・「対話」を通して道徳的価値を実感し、自己の生き方の中で実現していこうという思いをもつ姿

2 研究の重点 〈○は具体的な取り組みの例〉

多面的・多角的に自己の生き方を見つめることができる授業づくりの手立て

- 議論を通して、自身の考え方を多面的・多角的に見つめることにつながるような議論のテーマを工夫する。
- 教材を通して、道徳的価値の理解を広げたり深めたりする中で、自分事として納得する道徳的価値観を見いだすことにつながる働きかけの工夫をする。
- 道徳的価値を窓口に、「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」を視点とし「心のものさし」を意識した「省察」の場を設定する。